

## 事業の背景・目的

平成29年度までに明らかになった知見に基づき河川でのアカミミガメの防除手順を作成し、この防除手順に従って、市域を越えた瀬戸川水系ではアカミミガメの移動範囲等を把握するための調査及び防除を実施。また、谷八木川水系では防除手順に基づいて選定した周囲のため池を含めた全域防除を実施、明石川水系では重要地点での防除を実施。各調査地点での調査結果の検証を行い、効率的、効果的な防除手法を確立し継続的な防除を目指す。

## 事業の内容

### 瀬戸川流域における取り組み

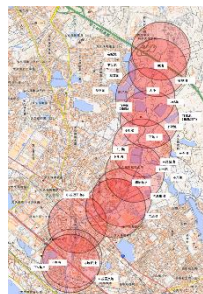
瀬戸川流域において、2市による共同はアカミミガメ防除を実施すると同時に、その効果を検証し、アカミミガメの移動範囲等を把握するための調査を実施。



×：放流地点、●：放流年、▲：放流1年後、■：放流2年後

### 谷八木川流域における取り組み

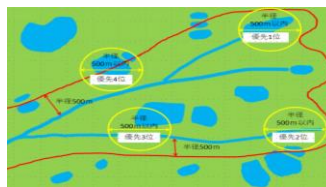
谷八木川流域では、河川から半径500m以内のため池（27箇所）を含めた全域防除を実施しその効果を検証。



谷八木川水系の防除範囲となる周辺ため池27箇所

### 明石川流域における取組

明石川流域においては、イシガメの生息が確認されている重要地点を選定し、重要地点周辺での部分防除を実施しその効果を検証。



水系が複雑な大規模河川での部分防除のイメージ

### 市民による防除活動の技術的支援

明石市が開催するため池管理講習会におけるアカミミガメ防除の啓発及び防除への参加の呼び掛け  
市民を対象にアカミミガメの防除方法、カメの見分け方を講習



### その他必要な調査・啓発活動

水中カメラによる生物相調査  
小学生を対象にアカミミガメを含めた淡水ガメの視点からの生物多様性保全の啓発



## 得られた成果

### 事業の成果

- 瀬戸川、谷八木川、明石川の3水系で、アカミミガメを合計3,220個体防除（瀬戸川水系1,748個体・谷八木水系1,445個体・明石川水系27個体）
- 移動範囲を検証した結果、放流後1年後と2年後で有意な差は認められなかった。
- 防除手順で防除範囲として設定した500m未満の移動距離を示した標識個体は、全体の84%を占め、500m前後を防除範囲とする有効性が示された。一方で、500m以上の移動距離を示した追跡個体は全体の16%を示した。それら範囲も考慮し防除を実施する必要があることがわかった。
- ため池では、アカミミガメが日光浴する習性を利用した日光浴罫による防除を実施した結果、日光浴罫は誘引罫に比べ効率的に捕獲できる手法であることがわかった。
- H29年に引き続き、ニホンイシガメの生息が確認され、ニホンイシガメの個体数の回復へ向けたアカミミガメ防除を実施することができた。
- 市民による防除活動の技術的支援と啓発活動を8つの市民団体等に所属する合計95名に行うことができた。